（別添資料１）

事業所名	子どもの家エラン	支援プログラム	作成日	2025 年	3 月	25 日

法人（事業所）理念		「共に育つ」 お子さんの育ちに関わるご家族や支援者、ボランティア、地域の方々も、お子さんと共に成長できることを目指しています。
支援方針		お子さんとそのご家族に寄り添った関わりをしていきます。 その中で３つの育みを大切にします。 １：理解に基づいた支援のある環境の中で「安心感」を育む ２：”自分でできた！”という体験を通じて「自己肯定感」を育む ３：人との関わりを通じて「信頼感」を育む
営業時間		9 時 00 分から 16 時 30 分まで　送迎実施の有無：あり　※区が運営する送迎バスの利用（席数5） 午前通園クラスのみ利用可 （午前併用、午後通所クラスは利用不可）
		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	・登園時に健康観察をして、体調不良や異常に早く気づけるようにしています。 ・園庭で育てた野菜の収穫と、調理して食べる体験を通じて、食への興味を広げます。 ・午前通園クラスでは、荷物整理・手洗い・着替え・排泄（トイレトレーニング）・お弁当の準備や片づけ・食事・歯磨きなどに、お子さんに合った形で日々取り組みます。 ・午前通園クラスでは、連絡帳と生活リズム表を利用して、その日の体調、日々の睡眠、排泄、食事の状況を家庭と事業所で共有します。 ・午後通所クラスでは、荷物整理・手洗いを毎回実施しています。それ以外の生活スキルを練習させたいという保護者からの希望がある場合、お子さんに合わせて取り組みます。
	運動・感覚	・感覚の特性に配慮しつつ、運動遊び・感覚遊び・音楽活動を提供します。 ・運動遊びでは、室内での巧技台やトランポリンなどを使ったサーキット、散歩や園庭と公園での遊具遊びを通じて、楽しみながら体力をつけ、体の動かし方を学べるような活動を提供しています。 ・感覚遊びでは、夏季のプールや水遊び、毛布ブランコや回転いすなどの全身活動から、スライム・絵の具あそび・片栗粉・粘土・紙ちぎりといった机上活動まで、様々な感覚に楽しくアプローチできるよう工夫しています。 ・音楽活動では、音を聴くことから始め、自分で楽器を触って音を出すこと、最終的には他者と一緒に楽器を演奏するところまで、お子さんの興味と理解に合わせて取り組んでいます。
	認知・行動	・お子さんひとりひとりの理解に合わせて個別にスケジュールを用意し、見通しをもって自分で部屋移動や活動への参加ができるようにしています。 ・お子さんが一人でやり遂げられる課題を自立課題として用意し、自己肯定感、達成感を得る体験を多く持てるようにします。 ・保護者のニーズとお子さんの現状のアセスメントを合わせて立てた目標に基づいて、職員と1対1での個別指導を実施します。
	言語 コミュニケーション	・お子さんの言語発達レベルに合わせた言葉かけを心掛けて接します。 ・必要であれば、絵カード交換式コミュニケーションや読み上げペン、声を録音できるボタンなどの補助代替コミュニケーションも使用して、意思を自分から人に伝えるというコミュニケーションマインドを育てます。 ・生活の様々な場面で要求や援助要求の機会が持てるよう、環境を設定します。
	人間関係 社会性	・グループ活動を通じて、順番を待つ、他者を意識する、協力するなど、社会的なスキルを学びます。 ・その際にも、見通しが持ちやすいよう、順番や活動の内容などを目に見える形で提示します。 ・おもちゃの使い方を教えて一人で遊べるスキルを身につける、大人との関わり遊びを通じて他者への注目を高める、ルールのあるゲームを通じて枠組みの中で他者と一緒に遊ぶなど、それぞれのお子さんの遊びの発達段階に合わせた機会を提供します。
家族支援		・午前通園クラス・併用利用：月に1回クラス見学・面談（30分程度） ・午後通所クラス：毎回モニターでクラスの様子を観察可能。クラス後に短時間支援内容の説明や保護者からの相談の時間を設けています。連絡帳で子どもの特性に基づいた支援のポイントを保護者に伝えています。 ・公式LINEを使って、日常的に相談できる体制を整えています。 ・保護者勉強会・保護者懇談会：保護者の仲間づくりと情報を得る場として、毎月勉強会や懇談会を行っています。 ・ペアレント・プログラム：希望者に向けて、「観察上手・褒め上手」になるためのコツを学ぶ全6回の勉強会を行っています。 ・父親勉強会：なかなか集まって自身の子どもについて話す機会のない父親向けに、在園児より年齢の高い子どもを持つ父親や経験のある教員などを講師に招き、お話を聞くとともに父親同士の交流の機会を設けています。 ・先輩保護者のお話を聞く会：卒園児の保護者を講師に招き、特別支援教室や特別支援学級・養護学校（特別支援学校）など、就学についての生の情報を得られる会を開催しています。 ・卒園児保護者の交流会の実施：卒園後の生活における支援ニーズの聞き取りを行い、在園児への支援や就学支援に役立てています。卒園後の保護者の交流の場としても機能しています。 ・ホームカミングデイ：在園児と卒園児が一堂に会する機会を年1回設け、同窓会・情報交換の場としています。その中で、在・卒園児より年齢の高い、発達障害を持つ子どもの保護者を講師に招き、就労先の選択～就労後の生活等についてお話を聞く会を実施しています。 ・園庭開放：在卒園児の交流と、保護者や子どもたちが気楽に相談や近況報告ができる場として、月に1回程度園庭を開放しています。	移行支援：・当事業所を離れた後も、見通しを持って自立的に行動できるようになることを目的に、スケジュールを使用しています。 ・自発的に相手に要求や思いを伝えることを目的に、必要に応じてコミュニケーション手段として補助代替コミュニケーション（絵カードなど）を活用しています。 ・通常級に進学を予定している年長児に「みならい小学生」という就学支援プログラムを実施しています。 ・杉並区就学支援シート「すばるⅡ」を記入し、進学先の小学校と事業所内でのお子さんの様子や支援の内容について情報共有しています。
地域支援・地域連携		・連絡帳：幼稚園・保育園・こども園と併用している利用者に対して、希望に応じて連絡帳で園とのやり取りを行っています。 ・園との連携：保護者の希望に応じて、園への訪問や園からの見学受け入れを行い、支援方法などの情報共有を行っています。 ・ボランティア：地域のボランティアの方々に、教材制作や園庭整備、行事のお手伝いにご協力いただいています。 ・実習生：心理・保育などの実習生を受け入れています。 ・施設間体験研修：区内の、支援対象年齢も様々な他事業所への体験研修を通じて、職員が幼児期以降の支援のニーズや実際の支援の様子を学んでいます。他事業所からの研修希望者の受け入れも行っています。 ・区内事業所実践報告会：区主催の実践報告会への参加を通じて、他事業所の実践を知り、関係づくりをする機会を得ています。	職員の質の向上：・毎日支援後に振り返りの時間を持ち、支援方法の共有と支援の質の向上を目指しています。 ・毎月の職員研修で、虐待防止や感染症防止など、基礎的な支援知識を共有します。 ・入職年数に応じた計画的な外部研修への参加を通じて、職員が共通の知識を持ち、支援について話し合えるようにしています。 ・区主催の研修へ積極的に参加しています。 ・法人内他事業所（放課後等デイサービス）との合同研修を年2回実施しし、専門性の向上とともに事業所間の連携を強化しています。
主な行事等		ホームカミングデイ（在卒園児対象の同窓会）・プール・夏祭り・運動会・芋ほり・お弁当遠足（近所の公園で保護者と一緒にお弁当を食べる）・クリスマス会 ・豆まき・ひな祭り会・成長を祝う会（卒園式）・お別れ遠足